建設常任委員会行政視察報告

建設常任委員会では、呉市と松山市を行政視察しました。
概要は以下のとおりです。

（実施期間）　令和７年５月 14 日～５月 16 日
（視察都市）　呉市、松山市
（視察内容）　呉市：豪雨災害による雨水排水対策について
　　松山市：みんなで歩いて暮らせるまちづくりについて

〔呉市〕

呉市では、豪雨災害による雨水排水対策について説明を受けた。呉市では、平成 30 年７月豪雨災害において、家屋や公共施設への大規模な被害や断水が発生し、産業への影響もあった。これを受けて、災害応急対応から本格的な災害復興へと体制を切り替えるため、災害対策本部を廃止し、新たに「呉市災害復興本部」を設置し、併せて、復興に向けた取組を集中的に推進するため、復興全体を統括する部組織「復興総室」を新設した。

また、平成 30 年度に公共施設・インフラ等の社会基盤や地域経済の迅速な復興、被災者の生活支援、災害に強い安心で安全なまちづくりに向けた施策を総合的・計画的に推進することを目的に呉市復興計画の策定を行った。

雨水排水対策としては、呉市上下水道ビジョンの浸水対策（雨水整備）の推進の主な施策として、雨水ポンプ施設等の整備、減災対策を進めている。今後の取組としては、老朽化が進行している新宮浄化センターの再構築、隣接する工場跡地を買収し、二河川ポンプ場全体を更新することとしている。また、今後の課題としては、技術職員の確保や、雨水排水施設の整備、施設の改築・更新、財源の確保が挙げられる。

委員からは、豪雨災害時の市への相談体制や、上下水道の老朽化率と更新に対する今後の取組などについて質問が出された。

（呉市での視察風景）

〔松山市〕

松山市では、みんなで歩いて暮らせるまちづくりについて説明を受けた。

松山市の現状としては、中心市街地の活力低下やライフスタイルの変化や多様化、高齢世帯一人暮らし高齢者の増加などから都市部の機能強化、多様な生活ニーズへの対応などが課題として挙がっていることから本格的な少子高齢化の到来を見据えて今までと異なるまちづくりを考える必要がある。

松山市地域公共交通網形成計画では、居住者の移動目的、外出頻度に応じたコミュニティ交通とすることで効率的な運用とすることや、並行する路線を統合、頻度や便数を見直し、効率的な運用とサービスの向上を目指すことを将来イメージとして掲げている。

歩いて暮らせるまちづくりとしての取組事例としては、ロープウェー街において、２車線を１車線にしたことで、歩行者数の変化や地価の上昇につながった。また、道後温泉周辺地区においては、交通規制による歩行空間の創出や自動車と歩行者の主動線の分離を行ったことにより、安全な歩行空間の創出や滞在時間の延長が効果として表れた。

松山市では、車から歩行者や自転車などの「遅い交通」に配慮し、道路の幅員構成を配分する「道路空間の再配分」を実施している。市民との合意形成については、道路空間の再配分は、沿道住民のライフスタイルが既に定着しているため、合意形成が容易ではなく、丁寧かつ地道な説明が必要である。また、地元や関係者と具体的な整備イメージを共有するため、社会実験の実施や模型・ＣＧの作成、交通シミュレーションなどのツールを有効活用することで、目指すまちづくりを推進している。

今後は、通行料増加や地価上昇などの効果を「見える化」するとともに、地域住民が空間を活用するためのソフト面の支援も重要である。

委員からは、地域との協議の進め方や、パブリックコメントの実施などについて質問が出された。

（松山市での視察風景）